

演奏に
役立つ

One Point Lesson

太田友香 おおた・ゆか

CLARINET

クラリネット



- ◆出身 茨城県日立第一高校、昭和音楽大学
- ◆所属 東京佼成ウインドオーケストラ
- ◆趣味 食べる事、映画鑑賞
- ◆血液型 AB型
- ◆星座 蠍座
- ◆読者にひとこと 楽しむ心を忘れずに☆
- ◆手紙の送り先 BJ 気付

スケール練習で基本テクニックを磨こう!!

夏真っ盛り！みなさんいかがお過ごしですか？夏休みを満喫中の方も多くいらっしゃるのでしょうかね(〇〇)私の学生時代の夏休みと言えば、吹奏楽コンクールに向けての練習はもちろんのこと、野球の応援、地域のお祭りに花火大会、新学期間際に焦って取りかかる宿題(笑)など、たくさんの出来事が思い出されます。楽しかったなあ！“夏休み”という言葉の響きだけで、今でもワクワクしてしまいます♪みなさん、練習もさることながら、息抜きの遊び、宿題なども忘れずにしっかりやって、充実した2010年の夏を過ごしましょうね♪

今日のレッスンでは、さらなるテクニックの向上のために欠かせないスケール(音階)練習についてお話していきたいと思います。この練習でもやはり、息遣いがとても重要なポイントになりますが、そのまえに五線譜中の「ラ」付近の指のフォームをチェックしましょう！このフォームが正しくできているか否かで、スラーがきれいにかかるかどうか左右されますよ☆

では【譜例1】を吹いてみましょう！ここで自分の指を鏡で見てみてください。「ラ」の音のとき、キイに触れる左の人差し指の位置はどこにありますか？写真の【よい例】のように、指の側面で触れる形になっていればオッケーです。トーンホールを塞ぐときと同じように、指の腹で押している人をたまに見かけますが、そのフォームだと速い動きに対応できなくなるので注意しましょう！そして、この



の運指に慣れて、これからするスケール練習でもその運指が活用できると、響きが豊かになってしまいがちなスロートトーン部分の音のムラも改善できるので、ぜひ試してもらいたいと思います。

指のフォームを確認できたところで、いよいよハ長調のスケールをメトロノームに合わせてfで吹いてみましょう！【譜例2】まずはじめはスラーで、最初の「ド」の出だしから息をしっかりとベルの先まで流し込む感じで練習します。このとき、響きのある大きな音で全部の音を吹けているか、吹く音階が凸凹していないかをよく聴きましょう。スケールを単なる音符の羅列と思わずに、一つのメロディとして感じて歌うように演奏できるとよいですね！一番難しいのはスロートトーンの「ラ」から「シ」に移る際のスラーだと思えますが、補強の運指を使って、「シ」の音に向かうときに一層スピードのある息を流すように心がけると、均等に音どうしが結ばれると思います。

スラーでうまく吹けるようになったら、今度はテヌートで吹いてみましょう！タンギングが加わっても、しつこいようですが“息”を緩めず遠くに流します。そして、タンギングのタイミングがメトロノームのテンポとずれないように気をつけましょう。最後のスタッカートでも同じ

要領で音階練習をしてください。

「スラー」、「テヌート」、「スタッカート」の3パターンを1セットとして音階練習すると、「息遣い」から「指の訓練」、「タンギングの練習」にもなるのでとても効果的です！私自身、今でもスケールの練習では、このセットを欠かさずやっています(ー)b

ハ長調以外にも、調号が少ない長音階の譜例を2つ載せたので、同じように3パターン練習しましょう♪ハ長調に出てくる五線譜中の「シb」もクラリネットの安定しない音の一つです。「ラ」と同じような指遣いで補強して、音色、スラーのかかりやすさを改善しましょう！

この時期はコンクールで、なかなか個人練習の時間を確保できない人もいるかもしれませんが、スケールは大切な練習なので、少しでも時間を見つけて、できるだけ毎日続けてくださいね♪

今月は音階練習のほんの一部をご紹介します。しかし、これはまだまだ奥が深い！来月もスケールの続きを一緒にやっていきたいと思えます。

これからまだコンクールが続くみなさん、日々の努力の成果が出せますように☆

